

# 第3分科会

## 学びの場のダイバーシティとインクルージョンの実現

### 分科会概要：

長引くコロナ禍により、よりよい学びの場づくりのために学生と教員と職員の挑戦・奮闘が重ねられている。その中には障がい（障害・障碍）のある学生のオンラインでの学習環境の共創も1つに挙げられる。

振り返れば2002年、大学コンソーシアム京都は「障害のある学生の支援に関する支援者養成講座」を通じ、「今、何が話されているのか」をリアルタイムに聴覚障害学生に伝えることで、同じ時間と空間を共にしている学習者どうしで疎外感が生じることがないように、講義の情報保障を実現するための取り組みを開始した。さらに時間を遡れば、大学コンソーシアム京都による京都地域の障害学生支援は、2001年2月19日に産経新聞夕刊に掲載された記事「難聴者に代わり講義筆記 ノートテイカー」を契機として、「京都の大学における障害学生支援に関するアンケート」が実施される運びとなり、その結果は2002年3月27日の第7回FDフォーラム第5分科会で報告されている。

20年の時を経た今、合理的配慮の努力義務の先を見据えつつ、大学入学へのアクセスと学修環境のユニバーサルデザインの両面から、多様な人々の学びと成長の環境はいかにして実現しうるのかを問う好機にある。実際、大学コンソーシアム京都における支援の型とした同志社大学では学内の支援制度発足20年を迎えた2021年4月に障がい学生支援室をスチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室へと改組、また京都大学では既存の障害学生支援の部署を2022年4月に改組し、DRC（Disability Resource Center／障害学生支援部門）が設置されたことも踏まえ、ダイバーシティとインクルージョンの観点から探究する。

### <プログラム>（敬称略、進行・内容には変更が生じる可能性があります。）

- 14：00 趣旨説明 立命館大学 共通教育推進機構 山口 洋典
- 14：05 鼎談「障害学生支援におけるコロナ禍の影響と大学間連携の現状と課題」  
同志社大学 土橋 恵美子、京都大学 村田 淳、立命館大学 山口 洋典
- 15：00 休憩
- 15：10 話題提供「合理的配慮の合理性とバリアフリーへのバリア」  
東京大学大学院 教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター  
星加 良司
- 15：55 参加者との対話
- 16：25 まとめ
- 16：30 終了

### <交流会>16:30~17:00 ※交流会への参加は任意です

本分科会では終了後30分を参加者の皆さんとの感想交流の場を設けます。より多くの方にご発言の機会を得ていただくためにも、25名以上の方にご参加いただいた場合には、ブレイクアウトルームの機能を使用する予定です。